

特集

尚綱大学生によるレポート 16

学生と統一地方選挙

若者の政治離れには議員にも問題があるのでは

グループ① 野口、堀脇、小林、松本、福田、緒方、工藤、水本

若者が選挙に行かない理由として、「政治は難しい」、「投票したいと思える人がいない」、「選挙や政治に関する知識が不足している」、さらに「立候補者が若者向けの政策をあまり出していない」などの意見がありました。そうして、更に若者の投票率が下がり、候補者は投票率の高い年齢層に向けたマニフェストを掲げるという連鎖が起こります。

こうした現状には議員（候補者）にも問題があるのではないかと思います。少なくとも私たちには「多くの立候補者は言っていることが皆同じ」に感じられ、誰に投票しても変わらない、ならば自分が投票しなくても問題ない、と考えてしまう原因にもなっています。

現状を変えるため若者に必要なのは、出馬した議員の情報や政治に関する知識を持つこと、そして他人事とせずに自分の意見を発信する勇氣を持つことであると考えます。また、投票者を増やすためには、若者が面倒くさがらずに投票できるようにインターネット投票の実現も考える必要があると思います。



選挙と学生の距離、その対策は？

選挙権年齢が18歳に引き下げられ3年目に突入しましたが、実際現場ではどういう状況になっているのでしょうか。今回は「社会調査法」の授業で統一地方選への関わり方について、2グループで議論してもらいました。学生目線ですが、見えてくるものはあるように思います。

（現代文化学部准教授 黄）

ネット投票などの参加しやすい仕組みを

グループ② 江河、桑原、土肥、中村、前田、龍、立石

どうしたら若者の投票率上昇が実現されるのか、私たちは次のような対策を考えました。

まず、インターネット投票を充実させてほしい。期日前投票などの機会を設けてあっても、投票所に行けない人もいます。そのため、ネット環境さえあれば投票できるこのインターネット投票を充実させると、おのずと投票率も上がるのではと考えました。

2つ目は、投票を大学などの単位認定に係るものとするといったのではという意見です。

最後に、幼少期から議会や選挙を身近なものとするため、議員側が訴えかけるだけでなく、住民に会ってありのままを話すような機会を少しでも設けられれば、政治を身近に感じられるのではないかと考えました。

